

【横浜市ニュース】 学校給食調理民間委託

中田市長のトップダウンで見切り発車 学校給食調理民間委託来年度一挙に24校に
中田市長の得意の手法 出来レース検討委員会
本当の狙いはコストダウンと負担のアップ

こんにちは大貫のり夫です <http://www.ohnuki.jp/>
http://www.ohnuki.jp/journal/journal/12_11_log.html より

【横浜市ニュース】

[ジャーナルトップ] [書庫] [記事検索] [編集室]

学校給食調理民間委託



中田市長のトップダウンで見 切り発車

学校給食調理民間委託来年度一挙に24
校に

横浜市教育委員会は、現在、神奈川区の神大寺小学校と金沢区の釜利谷小学校で試行的におこなわれている学校給食調理の民間委託を、来年度は22校増やして24校で実施すると議会で明らかにしました。

横浜市は、これからの時代にふさわしい学校給食のあり方を明らかにし、その基本方針を定めるとして「横浜市望ましい学校給食のあり方検討委員会」を設置し、このほど中間報告が出されました。

中間報告ですからまだ結論は出ていません。中間報告でも民間委託拡大の方向性は打ち出しているものの、「十分見極めながら拡大を図るべき」としています。

子どもたちの健康と成長そして、食教育に係わることで、すから、もっと慎重に考えることが必要ではという声と同時に、行政の民営化・民間委託の実績を重視する中田市長のトップダウンによる見切り発車だとの批判もあがっています。

中田市長の得意の手法 出来レース検討委員会

「あり方検討委員会」は市教育委員会の諮問機関といっても、民間委託によってコストダウンと効率化を進める中田市長の方針にしたがって、その設置が図られたものです。本当に子どもたちの成長と教育にとって、給食調理の民間委託が望ましいことならば何も問題はありません。

問題は、「望ましい」と報告した「検討会」が、はじめから「民間委託」の結論ありきであったらどうでしょう。市長とその意を汲んだ教育長が人選をしました。事務局は当局ですから情報も選別できます。引き出される結論は意のままです。

これまで、同じ手法で公立保育園の民営化、横浜市立大学の独立行政法人化、市立港湾病院の民間委託などなど、中田市長の私的諮問機関の結論を根拠に強行されてきました。

本当の狙いはコストダウンと負担のアップ

今回の「望ましい学校給食のあり方検討委員会」についても、公募による人選は採用されず、また、栄養士・調理師が外され、現職の教員も入っていません。

また、根本問題を検討するといいいながら横浜市の学校給食についての評価、分析がありません。

さらに、わが党の閣議員が教育委員会から取り寄せた「経費面での分析」では、コストの面でも、一食あたりの経費について神大寺小では民間委託のほうが28円やすくなり、釜利谷小では17円高くなっています。

この結果は、一概に民間委託のほうがコストが低いとはいえないことを示しています。事実、東京杉並区では学校給食調理は、民間委託は直営より高くつくことが証明されています。

さらに、決定的なことは子どもたちがどう思っているのか、まったく無視されています。民間委託以降、給食の食べ残しが増えていることです。この事実は子どもたちの意思表示として決定的ではないのでしょうか。

給食費の問題では月額一人3700円です。食材は財団法人学校給食会が一括購入し、同給食会には事務経費として約2億3000万円市より助成されています。

中間報告では、その中には食材検査などの安全確保事務費も入っているとし、その経費を「給食費にプラスすることも検討する」としています。

要するに、受益者負担を理由に給食会への助成金を削るために、その分給食費の負担を増やしたいというものです。

記入日時 2004/11/22 (月) /21:26:34 No.191